

海外旅行の楽しみ方

松浦 俊博

先月の書こう会でU氏の投稿に「オーストラリアでラフティングをして現地の人たちと楽しもうとしたら、ボートに同乗したのが日本からの出張者だったのでがっかりした」とあった。なるほどと共感した。

日本からの海外出張者がする仕事合間の旅行は、ガイドブックやWEBに紹介されていることを体験して旅行気分を味わいたいだけのことが多い。ガイドブックなどに紹介されている、景色の良い場所や珍しい料理や高級なホテルなどを追いかける旅をしても、現地での触れ合いによるドキドキ感はない。これに対して、個人の海外旅行では、一日二十四時間を自由に使えるので、人や普段の生活に直に接して、そこから新鮮な感動を得たいと思うものだ。両者は、目的も楽しむ方法も異なるので、相互に相容れない。

海外の街を紹介する「街歩き」というテレビ番組がある。街を適当に歩き回って、路地に迷い込んだり、行き当たりばったりの民家や店にお邪魔して、出会った人たちに話しかけて直の交流を深める。観光ガイド的な番組と違い、現地の人や生活に接することを最優先にした構成である。見ていると「エ！ そうなの」とか「よくやるなー」とか、常にドキドキしながら新鮮な気分になる。食事の紹介も、若い学生などが普段利用する店をいくつか選び、彼らがおいしいと思うものの食べながら勧める。決して高級ではなく普段の食事だ。海外旅行ではこういうものを追いかけてたい。

では、どういう旅行をすればいいか。まず、朝食付きのゲストハウスか安めのホテルに最低五泊すること。おばさんが朝のコーヒーを入れてくれる宿が良い。おばさんや他の宿泊客と話ができる。街の観光ではできるだけ歩き、新鮮な発見をする。道に迷えば街の人に助けってもらうのも良い。疲れた時には通りすがりの教会に入って休む。ミサや葬式に遭遇するかもしれない。

海外旅行は、「街歩き」のように現地の人や生活に触れ合い、新鮮な感動を得ようとするのが楽しみ方のコツだと思う。